第７回 校長会議あいさつ

R8.9.16　稲垣

夜9時を過ぎたというのに、ツクツクボウシの声が聞こえてきます。昔は、日没とともに蝉の声も止んだように記憶しているのですが、酷暑の日中を避けて鳴くのも、温暖化の影響でしょうか。彼は暗闇でパートナーに出会えるのだろうかと妙な心配をしてしまいます。教室にエアコンが備わって、残暑を気にせずに学習に集中しやすくなりました。一方で、子どもたちに適度に汗をかかせることも大切です。熱中症に留意しながら、体育や行事、放課等では、運動量を確保していきたいと思います。

本日は、新しい学習指導要領の方向性についてお話します。全容が示されたわけではありませんので、現時点における情報をもとに述べます。

本年度4月に、全国都市教育長協議会常任理事会のおりに、新しい学習指導要領の要点について、文科省初等中等教育局の担当から話を聞く機会がありました。そこでは、最近報道で取り上げられている時間割の裁量制度や中学校「情報」分野の新設、働き方改革を考慮した（？）教員の研修時間の確保などが説明されました。その後も新しい学習指導要領について、文科省の講話を聞く機会が2回ありましたが、いずれにおいても市教委や校長の関心の高い部活動の扱いや小学校で「情報」を総合の中に含める理由などについての言及はありませんでした。特に私が違和感をもったことは、取り上げられた要点の大半が学力について、その中でも理数系のいわゆるSTEMに偏重する傾向です。産業を支える人材育成の趣旨に弓を引くつもりはありませんが、現行学習指導要領の根幹として「知・徳・体」のバランスの取れた成長が掲げられており、それは不易と捉えて差し支えないと思うのですが、「知」の一部分だけが強調して述べられることには首肯し難いものがありました。

これからの学校教育を見通した時、知識理解の授業の多くはAIが担うと考えられます。一方で、人間形成や非認知能力の育成は、教師が中心となって進めていくことになると思われます。この両輪が機能してこそ、理想とする人間像に迫ることができるはずです。また、自然科学は言うまでもなく、人文科学においても特定の能力の育成を目標とする学習は、GIGAスクールによる効率化と個別最適化に馴染みやすく、それに対して、芸術や道徳、学校行事や特別活動等は、今後、教師に最も期待される領域とな

るでしょう。AIを活用した知識理解の学習に場所の制約はありません。実際、今でも高校入試の当日点を獲得するだけなら、登校せずとも塾や家庭学習だけでも可能と言わざるを得ません。このように考えると、未来の学校教育の最重要な役割は、集団生活のなかでこそ育むことのできる力や心を見据えて、教育活動を展開することにあります。この点を注視せずに進める教育施策は、百年の計を危うくするものになりかねないと思っています。

本市では、今年度からアントレプレナーシップ教育を推進していますが、その学習目標は、まさに人間形成や非認知能力の育成となります。そこに照準を合わせて、児童生徒の生き生きとした逞しい活動が展開されますようにご指導いただきたいと思います。